

GRANDIT miraimil Tips集サンプル

GRANDIT[®] グランディット

GRANDIT株式会社

在庫評価の目的

- 月末、期末時点での在庫単価、在庫金額を算定(評価)し、期末棚卸高(下記①)を算出することが目的です。
- 期末棚卸高を算出することで、売上原価(下記②)を確定することができます。
- 売上原価を確定することで、売上総利益(下記③)の算出ができます。
- 商品ごとに評価方法を選定することができ、所管の税務署への届出が必要です。

(F1_GL_08_R20) ページ: 1 / 1
作成日時: 2015/06/26 14:07:32

損益計算書
期間 2014年04月01日～2015年03月31日 (単位:円)

【売上高】		
☆売上高		3,981,155,438
【売上原価】		
期首商品製品棚卸高	0	
当期製品製造原価	125,954	
期末商品製品棚卸高	0	
☆売上原価		442,212,000
★売上総利益		3,538,943,438
【販売費及び一般管理費】		
☆販売費及び一般管理費計		
★営業利益		
【営業外収益】		
☆営業外収益		
【営業外費用】		
☆営業外費用		
★経常利益		
【特別利益】		
☆特別利益	0	
【特別損失】		
☆特別損失	0	
★税引前当期純利益		3,549,388,916
☆法人税及び住民税	0	
★当期純利益		3,549,388,916

➤①在庫金額を算定(評価)し、
期末棚卸高を算出する。

➤②期末棚卸高の算出により、
売上原価が確定される。

➤③売上原価の確定により、
売上原総利益が算出される。

(F1_GL_08_R20) ページ: 1 / 1
作成日時: 2015/06/26 14:07:32

貸借対照表
2015年03月31日 現在 (単位:円)

【資産の部】		
【流動資産】		
☆現金及び預金	5,237,471,666	
☆受取手形	21,850,500	
☆売掛金	2,132,096,508	
☆棚卸資産	236,820,756	
☆その他流動資産	668,883,846	
☆流動資産	8,297,123,276	
【固定資産】		
☆有形固定資産		
☆無形固定資産		
☆投資その他の資産		
☆繰延資産		
☆資産合計		
【負債の部】		
【流動負債】		
☆短期借入金	3,076,858,683	
☆引当金	0	
☆その他の流動負債	0	
☆流動負債	3,076,858,683	
【固定負債】		
☆長期借入金	0	
☆引当金(固定性)	0	
☆固定負債	0	
☆負債合計		3,076,858,683
【純資産の部】		
【株主資本】		
☆株主資本	5,396,787,093	
☆資本金	596,950,000	
☆資本剰余金	0	
資本準備金	0	
☆その他資本剰余金	0	
☆利益剰余金	4,799,837,093	
利益準備金	0	
☆その他利益剰余金	4,799,837,093	
☆任意積立金	0	
★繰越利益剰余金	4,799,837,093	
自己株式	0	
☆評価換算差額等	0	
その他の価証券評価差	0	
繰延ヘッジ損益	0	
土地再評価差額金	0	
新株予約権	0	
☆純資産合計		5,396,787,093
☆負債・純資産合計		8,473,645,776

➤②在庫金額を算定(評価)し、
期末棚卸高が算出する。

➤ 在庫評価の方法には、以下の7種類の方法があります。

評価方法	概要	メリット	デメリット
標準原価法	商品ごとに標準原価を設定し、在庫評価を行う(固定値)。	簡便であり、在庫評価結果を把握しやすい。	価格変動の大きい商品には不適応。
先入先出法	仕入れた順に出荷したとみなし、在庫評価を行う。	直近で仕入れた価格が評価額に反映されるため、時価に近い評価額となる。	インフレ等の物価変動により利益額が変動する。
移動平均法	仕入れる都度、その時点での在庫単価を計算する。	リアルタイムで在庫評価が行われるため、タイムリーな業績管理ができる。	仕入の都度、在庫単価を算出するため、後追い検証が難しい。
月次総平均法	一定期間(月次、期次)ごとに在庫評価を行う。	一定期間で在庫単価を算出するため、物価変動を平均的に回避することができる。	月中に払出単価を把握することができない。
最終仕入原価法	期末に最も近い時点において取得した仕入単価を用いて在庫評価を行う。	簡便であり、在庫評価結果を把握しやすい。	価格変動の大きい商品には不適応。
売価還元原価法	売上金額に原価率を乗じて在庫評価を行う。	類似した取扱品目数が多い場合に、グルーピングによる原価管理ができる。	値引等が多く、商品ごとの差益率が一定しない場合には不適応。
個別法	個々の取得価格を評価額とする(取引単位での原価、損益管理) ※ロット別在庫管理にて可能	貴金属、産業機器等の高額商品について適用し、原価、損益管理を実施できる。商社の出合取引に適用されるケースも多い。	大量取引に適用すると、利益操作が可能となる(一般的な業種には不適応)

CONFIDENTIAL

- 本文書は、GRANDIT株式会社が著作権その他の権利を有する営業秘密（含むサプライヤー等第三者が権利を有するもの）です。
- 本文書のいかなる部分も、弊社の明示の許可なく、いかなる形態または目的かを問わず、複製または送信することはできません。
- ここに含まれる情報は予告なしに変更されることがあります。
- 本文書に記載された他社製品名は他社登録商標されています。